

アンチエイジング・ドックの課題と展望

医療法人アエバ会 アエバ外科病院 草野孝文

【目的】

当院では、2006年6月よりバイオマーカー・サイエンス社のオンラインソフト、“エイジング・チェック”を導入し、アンチエイジング・ドック（健康長寿・若返りドック）を行っている。今回は体内年齢と酸化ストレス度などの結果報告とアンチエイジング・ドックの課題と展望について報告する。

【方法】

2008年1月末までに当院でアンチエイジング・ドック受診者は、男性52名（29～85才）、女性49名（30～84才）の計101例である。ドックの内容は、約75項目のQOL共通問診表と検査項目 ①筋肉年齢：身体組成・身体バランス・身長・体重・ウェストヒップ比・握力・視力体組成計（Physion社製）による体脂肪率などの体組成分析等 ②血管年齢：動脈硬化度 指尖加速度脈波血管硬化度・眼底検査・高感度CRP・ホモシステイン・酸化LDL等 ③神経年齢：高次脳機能検査 ウィスコンシンカードソーティングテスト④ホルモン年齢：IGF-1・DHEA-s・コルチゾール・性ホルモン・甲状腺ホルモン・アディポネクチン・レプチン等 ⑤骨年齢：腰椎DEXA法による骨密度測定検査 ⑥酸化損傷度・抗酸化能：尿中8-OHdG・イソプラスタン・各種ビタミン濃度など ⑦一般血液検査・尿検査。検査結果は分析ソフト“エイジング・チェック”での分析に基づいて総合評価している。基礎代謝と生活様式に合わせた運動指導と酸化ストレス度と抗酸化能の程度によるテイラーメイドな食事指導とナチュラルホルモンおよび抗酸化物質の補完療法を行っている。

【結果】

体内年齢はバランスが大切であり、男性は60才代で血管年齢の老化傾向を示し、女性は50才代でホルモン・血管年齢の老化傾向が見られた。酸化ストレス度は良好ゾーン40名（約70%）、警告ゾーン8名（約14%）、低活性ゾーン5名（約9%）、危険ゾーン4名（約7%）であった。

【結語】

当院におけるアンチエイジング・ドックの結果に基づき、体内年齢や、酸化ストレス度などの抗加齢医学的指標について今後、その臨床的意義につき統計学的に検討し、抗加齢医療の普及を推進したい。